

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：**グリーンイノベーションセンター** 部局長名：**阿部匡伸**

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> 建築系人材の育成のため、 ①岡山理科大学および岡山県立大学の学生も含めた学部生の学外実習を真庭市教育研究ゾーン構想と連携した事業として、真庭市において実施する。 ②大学院建築士実務経験認定科目であるインターンシップを真庭市等で実施する。</p> <p><グリーンbyデジタル部門> ①リカレント教育(岡山県寄付講座)の高度化の観点から、工学部・農学部・環境理工学部・教育学部・ヘルスシステムを中心に現場で活躍する様々な分野の社会人・技術者の方々と接点を持ち、リカレント教育と大学教育がリンクする教育を推進する。(関連する大学生を中心に30名を予定、リカレント(社会人)に関しては10名程度を予定、アイデアソン・ハンズオン・ハッカソンの場での出会い・接点を想定) ②工学部・農学部・環境理工学部・教育学部・ヘルスシステムを中心とする様々な分野に跨るDXに関する教育・カリキュラム構築を推進する。(関連する学部生を中心に30名規模を予定、DXツールの使い方を学ぶハンズオンカリキュラム+ワークショップを構築(1単位分)) ③農業・林業を中心とした実践フィールドを意識・活用した教育を推進する。(真庭市教育研究ゾーン構想と連携した事業として、夏合宿・岡山県立勝山高等学校との連携を進める(探究の時間を中心に)。)</p>	(1-1)	<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> ① 9/18から9/22まで、真庭市との共催により「森林・木材・木造建築に関するワークショップ」を開催し、木材の素材生産(林業)から加工・流通・製品化(建築物など)に至る過程について、座学では知ることができない現場の雰囲気や緊張感をフィールドワークを通して学んだ。3大学(岡山大学・岡山県立大学・岡山理科大学)の合計で32名の学生(学部生21名、院生11名)が参加し、建築だけでなく、森林生態や情報工学など様々な学問分野に興味を持つ学生が集まった。最終日に真庭市庁舎で開催された討論会では、初日から取り組んだアイデアソンの成果を市役所職員や木材産業関係者に報告するとともに、活発な議論が行なわれ、真庭研究ゾーンの発足を後押しした。 ② Architectre Workshop Aでは、Architectural Lecture Seriesの講演者の建築実例を事前調査するとともに、トップランナーと直接交流させることで、実務における設計力の基礎を学ばせるインターンシップの可能性を探った。Architectre Workshop B(構造)では、構造設計実務における、荷重設定、構造解析、断面設計、BIMによる整合性確認等の補助をし、設計実務の体験的学習を行った。Architectre Workshop B(意匠)では、意匠設計実務における、古民家再生プロジェクト、既存家屋を構造躯体の状態まで解体したものを実測調査し、既存構造躯体を活用したデザイン検討の補助をし、設計実務の体験的学習を実施させるインターンシップの実現性を確認した。 <グリーンbyデジタル部門> ① 寄付講座+SRの実施:18人の受講者中、8名の修了者があった。また、9/30、10/1及び11/11,12に行ったハッカソンイベントに、寄付講座受講生1名を含む11名の社会人及び本学を中心に県内の大学生26名、計37名が参加し、若手エンジニアの出会いの場として賑やかに実施できた。 ② 工学部(環境理工学部)・農学部・教育学部の学内教育DXの推進に向けて、DXツール演習・NoCode演習・画像処理演習・ハッカソンなどを企画実施した。知識・スキルだけでなくモノづくりまでつながられる人材育成を意識した内容でカリキュラム提供している。 ③ 真庭・勝山高校の探究の時間(夢現プロジェクト)の最終発表会に参加した。これをきっかけに、勝山の産業界も含めた学びの場である鼓山塾との連携を計画している。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> ①海外との共同研究を推進するため、ソウル大学の教員(専門:木質構造学)を1ヶ月程度招へいする。 ②国際的な研究者ネットワークを強化するため、木造建築と耐震設計に関する国際シンポジウムを開催する。</p> <p><グリーンbyデジタル部門> 地元企業との共同アジャイル開発スキームの検討を推進する。具体的には、次の3事業を実施する。 ①真庭市周辺における水の流れを解析するための研究を開始する。(辻本、珠玖、嶋、高橋)(2023年度は真庭市を取り巻く環境における水循環データ可視化と現場データのライブ収集を検討する) ②森林内部を可視化するためのセンシング・ドローン観測の研究を開始する。(藤森、亀川)(2023年度は真庭市市有林の内部環境の温湿度など環境データ、木の種類や太さなどのデータ、タイムラプスデータをLoRaなどLPWAを使ってライブで収集を取得することを目標とする) ③森林に関する各種のデータを蓄積するプラットフォームの構築を進めつつ、これにライブデータを流し込み蓄積することを開始する。(野上、小寺)</p>	(1-1)	<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> ① 11/1から11/29日まで、ティンバーエンジニアリングを専門とするソウル大学Jung-Kwon OH准教授を招へいし、今後の岡山大学とソウル大学の共同研究や学生交流、岡山県内の木材製品の韓国への輸出の可能性について意見交換を行った。また、11/28に、日韓の木材利用研究の交流に向けた講演会「韓国における木材利用と木造建築の現状」を開催した。ソウル大学Oh先生の紹介で、韓国建設技術研究院(KICT)のAn, Jae-Hong氏、Baik, Kwon-Hyuk氏と、日本と韓国の耐火木造の現状について議論し、岡山大学とKICTとの今後の共同研究について検討した。 ② 9/16に持続可能な地震耐久性建築に関する第2回学術セミナーを共育共創コモンズで開催した。本学および近隣大学の教員・学生並びに建築業界の実務家約70人が参加し、英国、トルコ、日本(東京大学、東北大学、岡山大学)からの6人の若手研究者による発表と活発な意見交換が行われ、若手研究者間の国際的なネットワークを促進し、新たな共同研究を発掘する機会となった。 <グリーンbyデジタル部門> ① ②真庭市周辺における水の流れを解析 LoRaを用いた多地点モニタリングシステムの開発を継続している。また、GXシナリオの一つとしてハイドロビナス(岡山大学発スタートアップ)との連携も模索している(小規模水力とセンシングの融合)。 ② セキュアドローンの作成 セキュリティ対策を施したモビリティに加えて、SecureIoTPlatform協議会と連携をしてみちびきGPS(誤差10cm未満の精度)活用を検討している。 ③ 森林に関する各種のデータを蓄積するプラットフォームの構築 クラウド×IoT×GXのシナリオで企業との共同研究を推進しつつ、一方で国際連携を展開している(KAIST、コリア大学訪問、Huda助教)。特にGXへの転用も視野に入れたIoTを含めたモニタリング・セキュリティに関しては、Huda助教を中心に(韓国ばかりでなく)米国研究者とも連携を模索している。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> ①社会人教育の推進のため、CLTリカレント教育(有料)を実施する。 ②県内大学との連携を推進するため、岡山理科大学、岡山県立大学の学生も対象とした木造建築の意匠講演会を開催する。</p> <p><グリーンbyデジタル部門> ①岡山県立勝山高等学校と林業・DXをキーワードに高大連携を進める。(DS部からの探究の時間へのコミットを模索する) ②真庭市をはじめ県北の自治体や企業とのDX連携を進める。ICT農業促進(画像処理・センサデータ活用など)のための支援を行う。 ③画像処理・NoCode・Docker/Gitを学ぶ公開講座を開講し、社会人・高校生などと交流しながらDXにかかわるスキルアップを図る。</p>	(1-1)	<p><木造建築・林業・サプライチェーン部門> ① 11/25に(一社)日本CLT協会と共催で「CLTを学びたい人のリカレント講座2023」を開催した。建築関係の実務者を中心に、建築を学んでいる大学生も含め、約60人が参加した。 ② 最前線で活躍する建築家やエンジニアを招聘し、意匠、構造、環境と建築を取り巻く様々なジャンルのトップランナーと直接交流する、Architectural Lecture Seriesを、共育共創コモンズで開催した(3回)。本講演は本学学生のみならず、岡山理科大学や岡山県立大学等の学生や高校生、社会人へと広く開かれたレクチャーとして実施した。 <グリーンbyデジタル部門> ① 勝山高校について鼓山塾との連携を通じた実践的な探究支援を進める計画である。 ② 真庭市との連携を進めるオムロンソーシャルソリューションとミーティングをもち、とりわけ大学生のコミットについて検討を進めている(森林GXだけでなく)。津山高専とミーティングをもち、県北のDX推進拠点形成について検討をはじめている。 ③ 公開講座を3件開発、実施した。</p>

④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(1-1)	<p>①今年度目標額40,000千円のところ、目標額を上回る42,525千円の外部資金を獲得した。</p> <p>②真庭市が設置した「真庭高校久世校地利活用検討会議」において、森林・林業の聖地「真庭」をフィールドに、産(設計, 建設, 住宅など)官(真庭市など)学(岡山大学, 岡山県立大学, 岡山理科大学)が連携して進める「森林・林業教育・研究の拠点」構想は、跡地利用において、所与の条件として位置づけられている。</p> <p>③UBC森林学部を対象とした学生交流(部局間)について、GICを含む3部局を実施部局として、協定を締結することで双方合意に至り、現在、学内の手続きを進めている(3/15時点)。2/26から3/1まで、UBC森林学部の教員3名を招へいし、今後の交流に向けた議論を行った。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	(該当なし)
対応状況	